

(19)日本国特許庁(J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-153890

(43)公開日 平成5年(1993)6月22日

(51)IntCl.<sup>5</sup>

A 0 1 K 97/10

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

Z 8602-2B

審査請求 未請求 請求項の数2(全 4 頁)

(21)出願番号 特願平3-235506

(22)出願日 平成3年(1991)8月22日

(71)出願人 391054497

川端鐵工株式会社

富山県黒部市生地芦区247

(72)発明者 川端 豊次

富山県黒部市生地芦区247 川端鐵工株式  
会社内

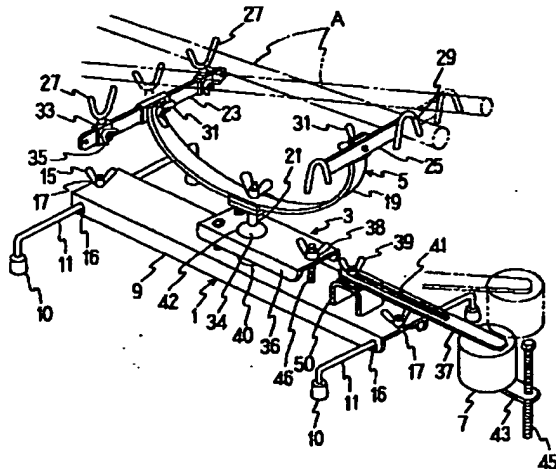
(74)代理人 弁理士 恒田 勇

(54)【発明の名称】 釣竿受け

(57)【要約】 (修正有)

【目的】 釣竿を三次元的に自由に方向を変えて掛止することができる釣竿受け、および、釣り場に単に置くだけであっても、釣竿を確実に安定して受け止め得る釣竿受けを提供する

【構成】 基台1の中央部に、釣竿の前掛止部27と後掛止部29とを有する二点支持型の釣竿受け5を、支持装置3を介して方向自在に取り付け、基台1については、前後に長いフレーム9の両端に大股に開く脚11を取り付けて低く形成し、支持装置3については、釣竿受け5の支軸21の下端に球体34を固着し、フレーム9の上には球体34の押板36をその後端が上下するように前端において支持し、フレーム9と押板36とに球体34が下端部と上端部とでそれぞれ嵌まる円形の支持孔40、42を設け、フレーム9に押板36の後端部を貫通するボルト46を突設し、押板36を球体34に締め付け得るようにそのボルト46に雌ねじの摘み付きねじ38を螺着した。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 基台の中央部に、釣竿の前掛止部と後掛止部とを有する二点支持型の釣竿受けを、支持装置を介して方向自在に取り付け、基台については、前後に長いフレームの両端に大腿に開く脚を取り付けて低く形成し、支持装置については、釣竿受けの支軸の下端に球体を固着し、フレームの上には球体の押板をその後端が上下するように前端において支持し、フレームと押板とに球体下端部と上端部とでそれぞれ嵌まる円形の支持孔を設け、フレームに押板の後端部を貫通するボルトを突

設し、押板を球体に締め付け得るようにそのボルトに雌ねじの摘み付きねじを螺着したことを特徴とする釣竿受け。

【請求項2】 基台の中央部に、釣竿の前掛止部と後掛止部とを有する二点支持型の釣竿受けを、支持装置を介して方向自在に取付け、基台については、前後に長いフレームの両端に大腿に開く脚を取り付けて低く形成し、フレームの後端には、重りの支持杆を左右に回転可能に突設したことを特徴とする釣竿受け。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、釣り場において、釣竿を手で持たないで支持するために使用する釣竿受けに関する。

## 【0002】

【従来の技術】釣竿を手で持ちながら魚を釣っていると、非常に手が疲れるために、従来から釣竿受けが使用されている。その形式としては、一点支持型と、二点支持型とに大きく分けることができる。また、両方に使用できる兼用型もある。

【0003】一点支持型の釣竿受けは、脚の上端部に、釣竿毎にそれを受け止めるU字形ないしV字形の掛止部が設けられているもので、釣竿の基端近くをその掛止部に掛けて、基端を手で押さえて保持するか、若しくは、釣竿の中央部をその掛止部に掛けることにより立て掛けて使用される。

【0004】二点支持型の場合であると、釣竿を受ける前掛止部の他に、その後方に釣竿の基端の持ち上げりを止める逆U字形ないし逆V字形の後掛止部を設けたもので、その二点において釣竿を手で持つことなく支持することができる。

【0005】脚は、写真機の支持脚のような三脚型や、地面に突き刺して使用する二脚型、或いは倒状V字型等の種類があって、その上端に釣竿受けが取り付けられる。釣竿の方向を変え得るように、この釣竿受けが水平方向に回転可能となっているものも使用される。

## 【0006】

【発明が解決しようとする課題】従来の釣竿受けは、二点支持型であると、釣竿を手で持たないで放置できる。また、水平方向に向きを変えることができるものもあ

たが、釣竿の方向を縦方向にも、つまり三次元的に自由な向きに設定することはできなかった。そのため、釣竿の先の高さを調整することができなく、釣竿を持ち上げるタイミングを逃しやすいという欠点があった。

【0007】また、二点支持型では釣竿を全体的に支持するものであるが、釣竿は前に重心が掛かりやすいので、釣竿受けの脚を突き刺すことにより地面に固定してあるか、或いは、釣る人の重みが加わって固定されるような場合でない限り、魚に引っ張られて釣竿受けが転倒する不都合があった。即ち、取り付けが不安定で弱かった。

【0008】釣竿受けの脚を地面に突き刺すには、地面が軟らかい場合に限られ、コンクリートの突堤等の上や、テトラポットの上においては、その固定手段を取ることができなかった。

【0009】この発明は、上記のような実情に鑑みて、釣竿を三次元的に自由に方向を変えて掛止することができる釣竿受け、および、釣り場に単に置くだけであっても、釣竿を確実に安定して受け止め得る釣竿受けを提供することを目的とした。

## 【0010】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するために、第一発明の釣竿受けは、基台の中央部に、釣竿の前掛止部と後掛止部とを有する二点支持型の釣竿受けを、支持装置を介して方向自在に取り付け、基台については、前後に長いフレームの両端に大腿に開く脚を取り付けて低く形成し、支持装置については、釣竿受けの支軸の下端に球体を固着し、フレームの上には球体の押板をその後端が上下するように前端において支持し、フレームと押板とに球体下端部と上端部とでそれぞれ嵌まる円形の支持孔を設け、フレームに押板の後端部を貫通するボルトを突設し、押板を球体に締め付け得るようにそのボルトに雌ねじの摘み付きねじを螺着したことを特徴とする。

【0011】また、第二発明の釣竿受けは、基台の中央部に、釣竿の前掛止部と後掛止部とを有する二点支持型の釣竿受けを、支持装置を介して方向自在に取付け、基台については、前後に長いフレームの両端に大腿に開く脚を取り付けて低く形成し、フレームの後端には、重りの支持杆を左右に回転可能に突設したことを特徴とする。

## 【0012】

【作用】上記の釣竿受けを使用するときには、二点支持型として、釣竿を前掛止部と後掛止部とに掛けることにより手で持つことなく支持できる。また、脚が大腿であるために、設置場所が限定されることがなく、テトラポットに跨がせて自重だけで設置することもでき、陸用、投げ釣り用など、用途が広い。

【0013】第一発明の場合であると、ねじを緩めると球体が回転自在となるので、使用するとき、釣竿受け

を三次元的に自由に回転させ、釣竿の最適方向において、ねじを締めることにより、釣竿受けを固定する。

【0014】第二発明の場合であると、基台の中心部を中心に重りが釣竿と反対側になるように、重りの支持杆を変向すると、重心が釣り合うために、釣竿受けが転倒することがなく、安定して釣竿を支持することができる。

【0015】

【実施例】次に、この発明の実施例を図面に基づいて説明する。

【0016】図面は一実施例を示したもので、その釣竿受けは、基台1の上に、支持装置3を介して釣竿受け5を回転自在に取り付け、後端に重り7を取り付けて構成される。コンパクトにして持ち運びや仕舞い易くするために、全体的に多くのねじにより分解・組立可能となっている。

【0017】基台1は、安定した低い形態であって、前後に長いフレーム9の両端に、線材からなる脚11、11が取り付けられる。そのうち、フレーム9を逆チャンネル形に形成してある。

【0018】脚11は、左右に長く軸状であって、両端が下へ屈折され、その両下端にプラスチックの足10、10が取り付けられる。したがって、平らなコンクリート等の釣り場に安定して置けるばかりでなく、例えば、テトラポットに跨がせることにより、テトラポットにも自重にてさらに安定して設置することができる。

【0019】脚11の取付けについては、その中間部に雄ねじ13を上向きに突設し、雌ねじ15により締め付けて固定するようにしたもので、フレーム9には、各両端の側壁に脚11が通る軸支用切欠き16、16を、中央には雄ねじ13が通る切欠き17をそれぞれ設けてあって、雌ねじ15を緩めると、脚11を折り畳むように収納でき(図3の矢印P方向)、また、切欠き17から取り外すこともできる。

【0020】釣竿受け5は、両端が上向きに曲がるアーチ形のフレーム19の下端に支軸21を突設し、フレーム19の両端に横杆23、25を左右に均等に突設させて取り付け、前の横杆23の両端部に釣竿Aを受ける前掛止部27、27を、後ろの横杆25の両端に後掛止部29、29をそれぞれ設けてある。

【0021】両横杆23、25の取付けについては、ねじ31により取外し可能となっている。また前掛止部27がV字形に、後掛止部29が逆V字形にそれぞれ形成される。そのうち、前掛止部27については、スライダー33と止めねじ35により位置調整可能となっている。そこで、前掛止部27、27の位置相互の関係により、両方の釣竿A、Aが互いに支えないように調整できる。また、両釣竿A、A間の間隔を自由に調整できるように構成することもできる。

【0022】支持装置3については、釣竿受け5の支軸

21の下端に球体34を固着し、フレーム9に球体34を保持する押板36を取付け、摘み付きねじ38で締め付けることにより球体34を固定するようにしたもので、フレーム9と押板36には球体34が端部で嵌まる円形の支持孔40、42が設けてある。

【0023】押板36の取付けについては、フレーム9に支持孔40よりも前において左右一対の前部ボルト44、44を突設し、後ろにおいては後部ボルト46を突設し、それぞれのボルト44、46を押板36に貫通させ、押板36の上において、前部ボルト44、44にナット48、48を螺入し、後端が少し上下するように止めてある。そして、後部ボルト46に前記摘み付きのねじ38が螺入され、それを締め付けると押板36が球体34に押圧されるようになっている。

【0024】そこで、ねじ38を締め付けると、押板36が押し下げられることにより球体34が固定され、緩めると球体34が自由に回転するので、一旦ねじ38を緩めることにより釣竿受け5の方向を自由自在に三次元的に変向することができる。

20 【0025】重り7の取付けについては、フレーム9の後端部に台50を突設し、その上に支持杆37を軸ねじ39により回転可能に止めてある。そこで、釣竿Aと反対側になるように重り7の方向を変え(図1の二点鎖線参照)、釣竿受けが倒れないように釣り合いが取れ、釣竿Aを安定して支持することができる。

30 【0026】支持杆37には、軸ねじ39の通し孔41を長孔に形成してあって、軸ねじ39を緩めることにより支持杆37を90度回転するとともに、その通し孔41に沿って引っ込めると(図2の二点鎖線参照)、重り7を仕舞うことができる。

【0027】重り7には、雌ねじ板43を突設し、それにボルト45を垂直に螺入してある。このボルト45を設置場所に支えるように高さ調整しておけば、重り7が効き過ぎても前端が浮き上がる不都合がない。

【0028】

【発明の効果】以上説明したように、この発明の釣竿受けによれば、二点支持型として手で持つことなく釣竿を支持できることは勿論、前後に長いフレームの両端に、大股開きの脚を取り付けることにより基台を構成したので、設置場所を限定されることがなく、殊に、テトラポットに跨がせて安定して設置することができる。

【0029】第一発明の場合であると、支持装置について、釣竿受けの支軸の下端に球体を固着し、球体の回転により釣竿の方向を自由に設定できるため、釣り糸を垂れる場所を自由に選定できることはもとより、釣竿を上げるタイミングを逃さない最も有効な方向にそれを向かせておくことができ、また、ねじにより球体を締め付けることにより、強力に釣竿を支持し得るという優れた効果がある。

50 【0030】第二発明の場合、フレームの後端に、重

5

6

りの支持杆を左右に回転可能に突設したから、釣竿の向きに合わせて釣合を取り、安定して釣竿を支持できるという優れた効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】一実施例を示す釣竿受けの斜視図である。

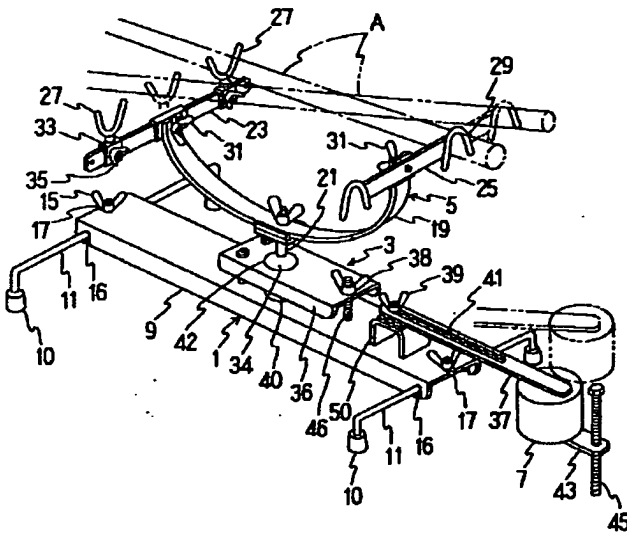
【図2】同実施例の平面から見た断面図である。

【図3】同実施例の側面から見た断面図である。

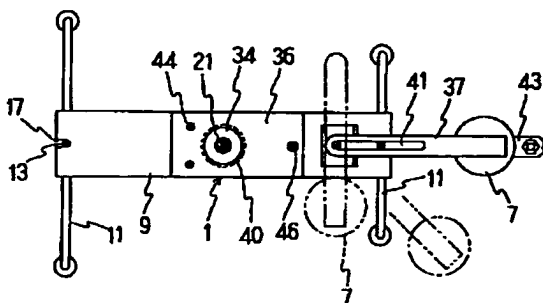
【符号の説明】

- |        |               |
|--------|---------------|
| 1 基台   | 9 フレーム        |
| 3 支持装置 | 11 脚          |
| 5 釣竿受け | 21 支軸         |
| 7 重り   | 27 前掛止部       |
|        | 29 後掛止部       |
|        | 34 球体         |
|        | 36 押板         |
|        | 37 支持杆        |
|        | 38 摘み付きねじ     |
|        | 10 40, 42 支持孔 |
|        | 46 ボルト        |

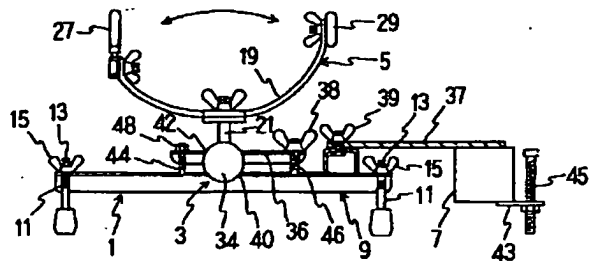
【図1】



【図2】



【図3】



PAT-NO: JP405153890A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 05153890 A  
TITLE: FISHING ROD SUPPORT  
PUBN-DATE: June 22, 1993

INVENTOR-INFORMATION:  
NAME  
KAWABATA, TOYOJI

ASSIGNEE-INFORMATION:  
NAME COUNTRY  
KAWABATA TEKKO KK N/A

APPL-NO: JP03235506  
APPL-DATE: August 22, 1991

INT-CL (IPC): A01K097/10

US-CL-CURRENT: 43/21.2

ABSTRACT:

PURPOSE: To provide a fishing rod support usable in broad applications without limitations in places to be set on because of its long leg stride, so designed as to put a fishing rod on both front and rear checking parts as two-point supporting type with no need for holding by hand.

CONSTITUTION: A two-point supporting type fishing rod support 5 provided, at the central part of the base 1, with a front checking part 27 and a rear checking part 29 for a fishing rod is set up, through a supporting equipment 3, in such a manner as to be free to orient. For the base 1, a pair of legs 11 with a long stride is installed in low height at both ends of a frame 9 long in

the back-and-forth direction. For the supporting equipment 3, a ball 34 is fixed at the lower end of the spindle 21 of the fishing rod support 5; on the frame 9, a press board 36 for a ball 34 is supported at its front end so that its rear end is movable vertically; the frame 9 and the press board 36 are provided with circular supporting holes 40 and 42, respectively, so that the ball 34 can be engaged with the holes at its upper and lower ends; the frame 9 is projectedly fitted with a bolt 46 so as to penetrate through the rear end of the press board 36, and a screw 38 threaded for female screw is fitted to the bolt 46 so as to bind the press board 36 tight to the ball 34.

COPYRIGHT: (C)1993,JPO&Japio